

ふ どう たき 続・不動滝の上から

たきのうえ 滝ノ上遺跡 第3・4次発掘調査報告

平成27年11月から平成28年3月にかけて、市内三美地区で道路等の整備に伴う滝ノ上遺跡の発掘調査が行われました。その成果がまとまりましたのでお知らせします。

那珂川に面している三美地区の滝ノ上遺跡は、平成25年から4年にわたって発掘調査が行われ、縄文時代から平安時代までの大規模な集落跡が確認されています。今回は、ほぼ同期間に滝ノ上遺跡に2つの調査区を定め、第3次と第4次の調査を行いました。

今回の調査では、土器が埋められた部分・石で囲われた部分・作業を行う広い部分の3つの構造を持った複式炉^{ふくしきろ}*が作られた住居跡が見つかりました。これは県内初の発見です。

さらに床が二段の構造を持つ市内最大級の住居跡からは、150個もの土器が発見されました。他にも大量の縄文土器が出土し、多数の住居跡が確認されるなど、当時の滝ノ上遺跡は多くの人々が集っていた特別な場所であったといえるでしょう。



▲出土状況



▲3つの構造を持つ炉



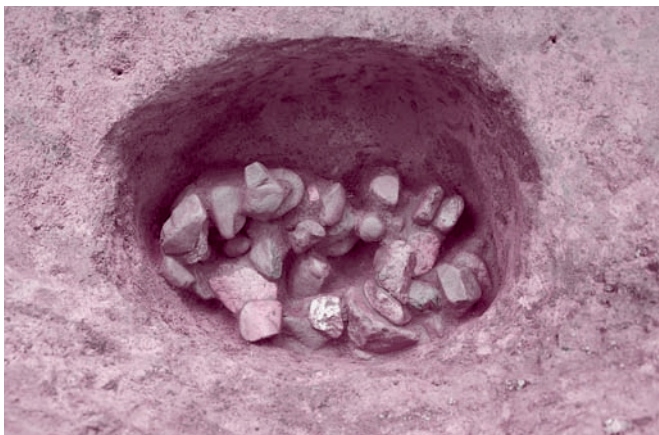
▲床が二段構造の住居跡

※ 炉とは、暖を取ったり湯を沸かしたり、煮炊きをしたりする場所のこと



▲出土したたくさんの土器

また、土器以外にも大量の石が出土していて、すぐ下にある那珂川の川原から集めていたと考えられます。まとまって出土した石類やその材質から、滝ノ上遺跡が石器を作るために必要な石材を集める場所であり、周辺の遺跡で発見された石器と比べると、近くの集落との関係が長い間続いていた様子をすることができます。



▲まとまって出土した石類

発掘作業の終盤には、周辺の住民を対象とした現地説明会が実施され、たくさんの人が参加しました。

滝ノ上遺跡の名は、「不動滝（別名：そうめん滝）」と呼ばれる滝の台地上に遺跡があることが由来となっています。はるか昔の人々も、この場所で那珂川を見ながら生活していたことでしょう。

今回の調査で出土した土器や石の一部は、平成29年2月7日から23日までの期間中、市役所本庁1階ロビーで展示します。この機会に、ぜひご覧ください。

今回の発掘調査ではたくさんの方々にご協力をいただき、大きな成果を得ることができました。これらは、私たちのふるさと常陸大宮市の成り立ちを知るための貴重な資料になります。ふるさとの歴史と文化を知り郷土愛を育むため、今後ともご理解とご協力をお願いします。



▲現地説明会の様子

■問い合わせ■ 歴史文化振興室 ☎52 - 1450